

六三四塾 御中

お世話様です。昨年634サミットでは大変お世話になり有難うございました。

1月5日(金)の山梨日日新聞に記事が掲載されました。山梨県内ではかなりの反響がありました。切り抜き記事をお送りしますので小木曾会長にご案内をお願いします。

この内容については醍醐山ブログ：楽天とフェイスブックで明日、掲載予定です。ブログは大変盛り上がり、楽天で日によって差異がありますが、毎日160~360人がアクセスしています。フェイスブックのアクセスはこれの2~3倍あると思われます。是非ご覧ください。

醍醐山を愛する会 事務局 磯野澄也

次ページ 切り抜き記事があります。

# 「634サミット」で3位入賞 醍醐山PR活動を評価 身延の団体山の魅力紹介

身延町の町民有志らでつくる「醍醐山を愛する会」（依田武司代表）は、「東京スカイツリー」の高さにちなんだ

「634サミット」の発表のコンテストで入賞した。同町の醍醐山をPRする会の活動が評価された。会の担当者は「過



活動の状況を説明する「醍醐山を愛する会」のメンバー（奥）  
＝東京都墨田区



市川 和貴  
上田康太郎  
(0556)22-5431、5432  
FAX 22-1797

疎地での取り組みが認められてうれしい」と話している。

サミットは、スカイツリーがある墨田区内の有志でつくるNPO法人「六三四塾」が主催し、昨年11月10日に開催した。「634」という数字に関係する取り組みなどを発表するイベントで今回で5回目。全国各地から18の個人や

団体が参加した。

愛する会は、醍醐山を通じて地域を盛り上げようと2012年に発足。サミットには「町の魅力を知ってもらいたい」（同会担当者）と、3人のメンバーが参加した。発足時の醍醐山の標高が634・8㍎（現在は635㍎）だったことなどをアピールし、登山道の整備や山の魅力を伝える一斉登山など活動内容を紹介した。

審査の結果、全体の3位に当たる審査員特別賞を受賞した。会事務局の磯野澄也さんは「634に関連する多くの団体があり驚いた。サミットでのつながりを大切に、地域を盛り上げる活動を続けた」と話している。